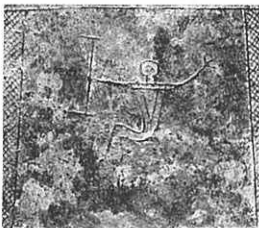
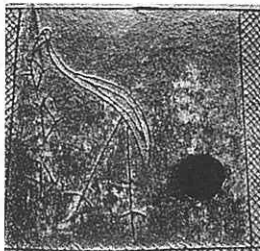


# 佐賀県立博物館・美術館報

No.72

佐賀市内1丁目15番23号 TEL 0952 (24) 3947



国 宝  
桜ヶ丘第4号銅鐸  
(A面部分)

この桜ヶ丘第4号銅鐸は、神戸市灘区桜ヶ丘町の尾根の東朝斜面で他の14個の銅鐸・銅戈7本と共に昭和39年に発見されたもので、今から約2,000年前に楽器のような音を発する道具として製作され、祭器としても使用されたことが推定されている。

第4号銅鐸は、高さ42.2cm・重さ3.27kgを有する扁平鈕式の四区袈裟罽文銅鐸と称され、両側の鐸身の四区画に線画が鑄出されている。銅鐸A面には右上に魚をくわえた鷺か鶴、左上に三匹の動物とクモ、右下に弓を持ち鹿を捕えようとする人物、左下に器具を持った人物、銅鐸の裾には鹿の列が描かれている。

弥生人の日常生活や環境を知ることのできる絵画銅鐸を代表するものとして、一括国宝に指定された優品である。

目次	○国宝「桜ヶ丘第4号銅鐸(A面部分) ……………表紙
	○昭和60年度特別企画「古代史発掘展」開催要項 ……………2 P
	○展示の構成 ……………3 P～7 P
	○行事のお知らせ ……………8 P

## 昭和60年度特別企画

### 古代史発掘展開催要項

展示会の名称 古代史発掘 一新出土品にみる九州の古代文化－

**主 旨** 近年の大規模な発掘調査によって各地から日本の原始・古代文化を考えるうえで貴重な資料が提出されつつあり、九州においても意義深い発見が相次ぎ、かつての認識を深めるとともに、その歴史的意味についても再検討を必要とする現状にある。

火山灰を手がかりにした旧石器文化の編年的研究・縄文土器の発生問題・縄文時代晩期にはじまった米作り農業とその東方への伝播・九州での銅鐸製造・石人石馬文化の新たな広がり確認などはそれらの検討課題の一端である。

本展示会は九州各地で進められている発掘調査・研究活動の最新の成果と近畿地方出土の関連資料を紹介し、あわせて九州の原始・古代文化の特色をさぐるものである。

**主 催** 佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館

**会 場** 佐賀県立博物館（〒840 佐賀市内一丁目15番23号 電話 0952(24)3947)

**会 期** 昭和61年2月8日(土)～3月2日(日)（月曜日休館）

**観 覧 料** 大 人 個人 500円 団体 400円

大・高生 個人 250円 団体 150円

中・小生 個人 150円 団体 100円

（団体は20名以上）

**講演会等の開催** 展示資料に関する講演会・研究会・映写会を実施する。

#### ■講演会「近年発見の重要遺物と九州の古代文化」

講師 森貞次郎博士（九州産業大学教授）

日時 昭和61年2月9日(日) 午後1時30分～3時

場所 佐賀県立美術館（2階）研修室

#### ■講演会「発掘者が語る古代史」

##### I 「菜畑遺跡と稲作開始期の諸問題」

講師 中島直幸氏（唐津市教育委員会）

##### II 「安永田銅鐸鋳型と弥生人のまつり」

講師 藤瀬慎博氏（鳥栖市教育委員会）

日時 昭和61年2月23日(日)午後1時～3時

場所 佐賀県立美術館（2階）研修室 ※入場無料 先着100名

#### ■映写会 昭和61年2月15日(土) 13時と15時30分の2回上映（美術館ホール）

**図録の発行** 展示資料に関する図録を発行する。本文・図版共 220ページ（一部）定価 1,900円 送料 300円

#### 主な展示品（予定）

##### 旧石器・縄文時代

細石器 (佐賀県磯道・船塚遺跡)  
豆粒文土器 (佐世保市泉福寺洞穴)  
大陸系磨製石器類・炭化米 (唐津市菜畑遺跡)  
縄文晩期土器 (福岡県曲り田遺跡)

##### 弥生時代

細形銅矛 (福岡市板付田端遺跡)  
細形銅矛鋳型 (佐賀県姉遺跡)  
中宏形銅矛 (佐賀県検見谷遺跡)  
●大阪湾型銅戈 (神戸市桜ヶ丘遺跡)  
◎多鈕細文鏡 (奈良県名柄遺跡)  
◎重圓「清白」銘鏡 (飯塚市立岩遺跡)  
●袈裟文銅鐸 (神戸市桜ヶ丘遺跡)

横帯文銅鐸鋳型 (鳥栖市安永田遺跡)  
◎流水文銅鐸鋳型 (茨木市東奈良遺跡)  
銅鉏鋳型 (東大阪市鬼虎川遺跡)  
半両錢・五銖錢・壘 (宇部市沖の山遺跡)  
銀製指輪 (佐賀県惣座遺跡)

##### 古墳時代

石盾・石棺 (佐賀市西原古墳)  
石人・石鞆・石盾 (八女市岩戸山古墳)  
陶質土器 (甘木市池の上遺跡)  
初期須恵器 (大阪府陶邑古窯跡群)  
●須恵器（蓋坏） (熊本県江田船山古墳)

●国宝 ◎重要文化財

## 展示の構成

### I. 旧石器文化の解明 - 降下した火山灰を求めて-

#### II. 始源期土器の探求

1. 日本最古の土器群を求めて
2. 黒曜石の分布 (石器製作の主要な素材)

#### III. 弥生文化の解明 - 米・青銅・鉄-

1. 稲作農耕文化の形成
  - ①形成期の稲作文化
  - ②稲作文化の東進
2. 青銅器をめぐる諸問題

①朝鮮系無文土器

②中国系文物

③青銅武器

④銅鐸

⑤その他の青銅器・ガラス

#### 3. 初期鉄器の生産と普及

#### IV. 古墳文化の新資料 - 石盾・須恵器-

1. 石人石馬文化の新発見
  2. 須恵器のはじまり
- 付 - 新発見の文化財

### I. 旧石器文化の解明-降下した火山灰を求めて-

近年の九州における旧石器文化研究は、テフラといわれる火山灰の分布とその層位的確認によって、基礎的研究が進められている。とくに、A T層と称される始良丹沢火山灰とA h層と称されるアカホヤ火山灰は、A T層が今から21,000年から22,000年前とされ、A h層が今から5,000年から6,000年前という年代が測定されており、A T層の確認は旧石器文化研究の鍵層とまでいわれている。

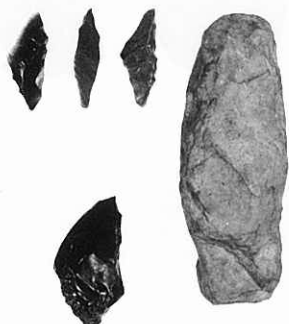
始良丹沢火山灰層の確認調査は、鹿児島県をはじめ長崎県の百花台遺跡・堤西牟田遺跡、佐賀県の枝去木山中遺跡、熊本県の下城遺跡・曲野遺跡・狸谷遺跡、大分県の駒方古屋遺跡等がある。

### II-1. 始源期土器の探求-日本最古の土器群を求めて-

今から約12,200年前の旧石器時代最終末期に、粘土で形を作り、これを焼成することによって器の製作技術を発見すると、食生活の一層の安定と縄文文化の発展をみちびいた。この最古の土器群を求めて、西北九州に点在する洞穴が注目されている。

### II-2. 黒曜石の分布-石器製作の主要な素材-

旧石器時代から縄文時代にかけての石器製作の素材として、黒曜石とサヌカイトの使用が一般的である。とくに黒曜石は、細かな加工と鋭利な刃部を作り出すことが可能なことから、鉄器や青銅器の出現するまで主要な素材として使用された。



磨製石斧・ナイフ形石器 馬場甚蔵山遺跡出土



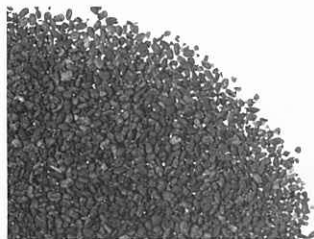
日本最古の土器 (佐世保市泉福寺洞穴)

### III. 弥生文化の解明—米・青銅・鉄—

#### 1. 稲作農耕文化の形成

福岡県新宮町に所在する夜臼遺跡<sup>ヨコウ</sup>の発掘により、最古の弥生式土器と縄文系土器が共存することが確認されると、弥生時代の基本的な生産形態である稲作農耕の開始を、縄文時代末期に求めようとする研究が進行した。弥生時代の稲作農耕文化の特色に、米・紡錘車・織布・定形化された土器・大陸系磨製石器・金属器・支石墓等が存在することがあげられているが、米・紡錘車・織布・大陸系磨製石器等が縄文晩期に存在することが判明した。

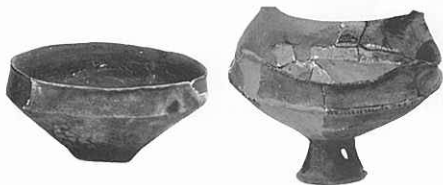
このような状況は、福岡市板付水田遺跡や佐賀県唐津市菜畑遺跡さらには福岡県二丈町曲り田遺跡において、縄文晩期後半の水田跡や住居跡等が確認され、炭化米・大陸系磨製石器・木製品、土器類の出土により推定されるようになった。



炭化米 福岡市 板付遺跡



初丘痕のついた浅鉢 熊本県大津町ワク石



浅鉢と高杯 佐賀県唐津市 宇木汲田貝塚



擦切り孔の石庖丁 長崎県北有馬町 原山遺跡



波状口縁浅鉢 佐賀県唐津市 菜畑遺跡



小形壺 長崎県北有馬町 原山遺跡



壺 福岡県飯塚市東菰田



壺 福岡市 藤崎遺跡



朝鮮系無文土器(甕) 福岡県小郡市 横隈鍋倉遺跡

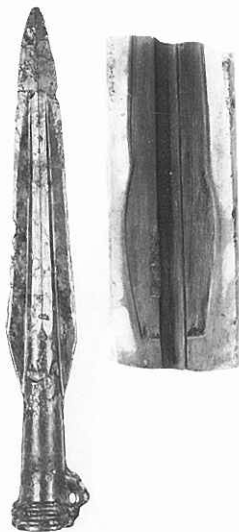


## 2. 青銅器をめぐる諸問題

弥生文化は初期農耕文化であるが、他面では初期金属器文化でもあった。とくに、近年の大規模な発掘調査は、青銅器文化の内容を一層明らかにする資料の発見や研究成果が多く確認をされた。その特色は

- ① 青銅武器や銅鐸の铸造用鋳型が発見され、土器との共伴から年代比定が可能となった。
- ② 新出土資料の発見で、国産青銅器の成立と発展の道程が明らかになりつつある。
- ③ 弥生時代の祭祀を銅鐸や青銅武器と鐸形土製品・武器形の石製品や木製品が、総合的に研究が進められた。
- ④ いわゆる二大青銅器分布圏の存在は変わらないが、青銅製祭祀品による祭祀に共通の基盤を求める立場が生れた。
- ⑤ 分析化学的研究による青銅器の材料産地の同定、中国錢貨の出土による年代論の活性化。

等があげられる。



細形銅矛  
佐賀県北波多村徳須恵

中細形銅劍鋳型  
佐賀県千代田町 姉造跡



貨布  
福岡県大野城市 仲島遺跡



中国式銅劍  
福岡県甘木市 中寒水遺跡

連弧文「清白」銘鏡 佐賀県東春振村 二塚山遺跡



鐸形銅製品  
福岡市 今宿五郎江遺跡



銅鐸鋳型  
鳥栖市 安永田遺跡

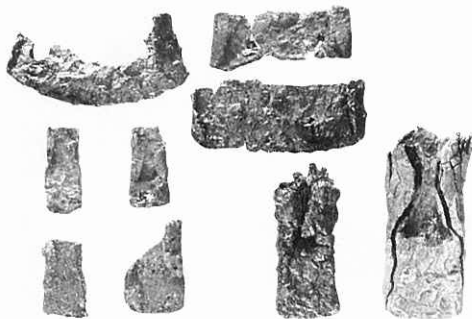


鐸形銅製品鋳型  
福岡県春日市 岡本四丁目遺跡

### 3. 初期鉄器の生産と普及

鉄の発見が文明を大きく発展させてきたことは広く知られている。日本での鉄器の初現は縄文時代晩期までさかのぼり、いずれも舶載（輸入）品とされている鉄斧で、青銅器の受容よりやや先行する。現在、最古の鉄器は福岡県曲田遺跡の住居跡内包含層から出土した鉄斧で、縄文時代晩期末に比定され、同時期の鉄斧が北九州市馬場山遺跡からも出土している。弥生時代初頭になると、熊本県斉藤山出土の鉄斧がある。

鉄器の輸入は弥生時代を通じて認められ、朝鮮や中国で作られた工具や武器類が多く出土する。鉄器の生産は北部九州において、弥生時代前期末から中期初頭に開始されたと考えられているが、製鉄関係の資料が未発見の状況から鉄素材は輸入にたよっていたと解される。



鉄製農工具  
佐賀県基山町 千塔山遺跡



鉄製武器類  
佐賀県東脊振村 二塚山遺跡



鉄鎌  
福岡県小都市 大板井遺跡

#### Ⅳ. 古墳文化の新資料－石盾・須恵器－

春振山系の南麓には、阿蘇溶結凝灰岩で製作された舟形石棺の所在が知られている。5世紀前半に位置づけられる佐賀市久保泉町の熊本山古墳と5世紀中頃の金立町丸山古墳で、八女市周辺の石材を使用して製作されたものと推定されている。これらの古墳に近接して5世紀後半の西原古墳があり、昭和60年に阿蘇溶結凝灰岩で製作された石製盾が確認された。盾形埴輪を石製品化したもので、全高75cm・最大幅45cmを有する。福岡県八女市岩戸山古墳や熊本県竜北町姫の城古墳との関連性が追求されている。

近年、春振山麓の九州横断自動車道の建設に伴う調査で、初期に位置づけられる須恵器や陶質土器が確認され始めた。これは産地同定や型式学的研究の発達に伴うもので、陶邑窯や福岡県朝倉地方の小隈窯・山隈窯の影響が考えられる。



方格規矩四神鏡  
佐賀県小城町 寄居古墳



金垂飾付耳飾  
伝・福岡県春日市 日拝塚古墳



二重口縁壺  
福岡県小郡市 三国の鼻1号古墳



(推定) 盾形石製品  
佐賀市 西原古墳

## 博物館・美術館日誌

1985		12月7日	九州芸術学会 (於・美術館研究室)
10月20日	常設展前期終了	12月11日	第9回エマ会展 (12月15日迄)
10月21日	熊本山古墳舟形石棺の据付け作業開始	12月18日	第6回佐賀新聞学生書道展 (12月22日迄)
10月26日	熊本山古墳舟形石棺の据付け作業完了	12月28日	執務納め式 (防火訓練)
11月1日	第35回佐賀県美術展 (11月10日迄)	1986	
11月16日	第9回佐賀県高等学校芸術祭美術・書道展 (11月24日迄)	1月4日	執務始め式
11月27日	第26回佐賀県学童美術展 第5回九州二科会写真部公募展	1月15日	「成人の日」常設展入場無料
12月5日	常設展後期開始 (3月31日迄)	1月21日	第8回さが行動会展 (1月26日迄)

## 行事のお知らせ (昭和60年度)

### 常 設 展

展 覧 会 名	会 期	観 覧 料	会 場
佐賀県の歴史と文化展	12月5日～3月31日	大人 200(150) 大・高生 150(100)	博 物 館
近代の美術・工芸	12月5日～3月31日	中・小生 70(50)	美 術 館

### 企 画 展

展 覧 会 名	会 期	会 場	展 覧 会 名	会 期	会 場
第8回二紀佐賀グループ展	1月29日 ～2月2日	美術館	佐賀大学教育学部美術工芸科 卒業制作展	2月19日 ～2月23日	美術館
第31回書初書道展	2月5日 ～2月9日	美術館	第15回九州グラフィック デザイン展	2月26日 ～3月2日	美術館
古代史発掘展	2月8日 ～3月2日	博物館	佐賀県現代美術展	3月8日 ～3月30日	美術館

### 館内販売図録案内

図 録 名	単 価	図 録 名	単 価
玄海のくじら捕り	1,400円	高木背水	1,700円
売茶翁	1,200円	近代の日本画	1,600円
鏡玉剣	1,500円	近代・九州の洋画家たち	1,500円
岡田三郎助	1,700円	佐賀県立博物館	300円
古賀忠雄	1,300円	肥前の中世美術	1,800円
		蒼海・梧竹	1,200円

博物館・美術館報 第72号  
 発行年月日 昭和61年2月8日  
 編集 大塚正道  
 発行 佐賀市内1丁目15番23号  
 佐賀県立博物館  
 佐賀県立美術館  
 印刷 備大同印刷